

(8) 中 国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

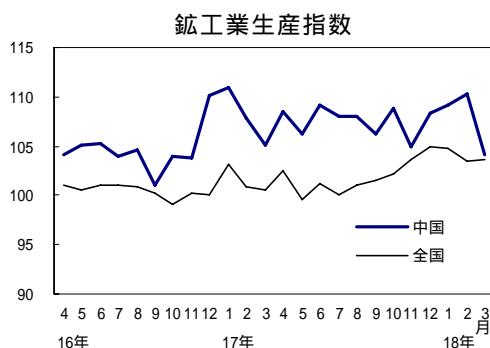
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

化学は、自動車部品に使用する樹脂原料が好調であったが、定期修理と重なったこともあり、3四半期ぶりに減少した。鉄鋼は、車や造船向けが好調であるとともに、粗鋼関係も伸びており、3四半期ぶりに増加した。輸送機械は、輸出向けが引き続き堅調に推移しているとともに、新型車の生産も好調なことから、上昇している。一般機械は、減少はしているものの、自動車のプレス用金型が好調であり、堅調に推移している。電子部品・デバイスは、デジタル家電用の部品が好調であるとともに、固定コンデンサや液晶素子が高水準で推移しているため、増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年3月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト 月期	生産		出荷 月期	在庫 月期
		10~12 月期	1~3 月期		
化学	17.6	1.1	1.1	0.3	4.2
鉄鋼	12.1	2.2	1.7	2.9	0.4
輸送機械	12.0	4.5	2.0	0.7	56.0
一般機械	10.4	9.4	16.2	12.5	18.6
電子部品・デバイス	7.6	8.5	12.3	11.6	-
鉱工業	100.0	0.2	0.5	1.0	2.8

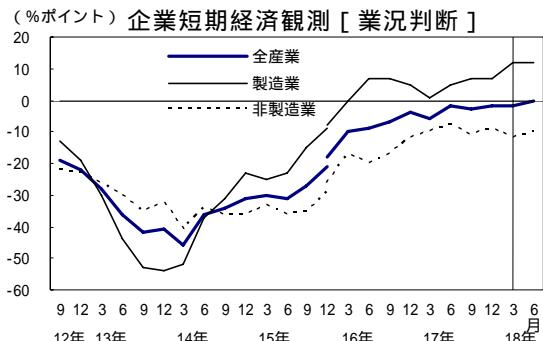
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

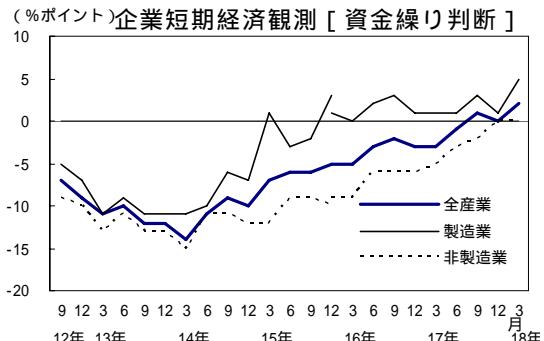
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

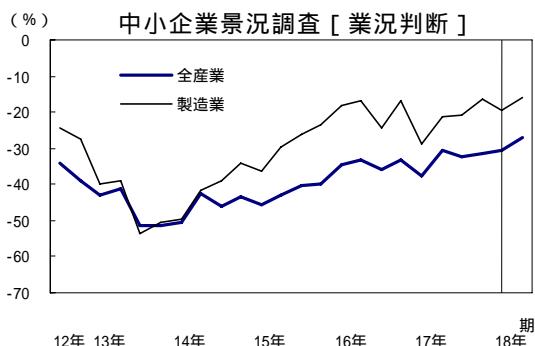
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。18年期は見通し。

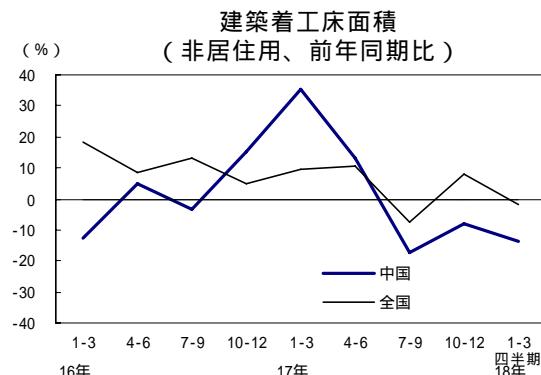
景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「受注量・価格ともに横ばいで推移しているが、原材料等の価格は高止まりから更に上昇する傾向にあり、採算的には非常に厳しい(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]		
	(前年度比 %)	
	17年度実績見込み	18年度計画
全産業	10.6(1.0)	13.0
製造業	21.8(0.2)	19.1
非製造業	6.8(2.7)	0.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

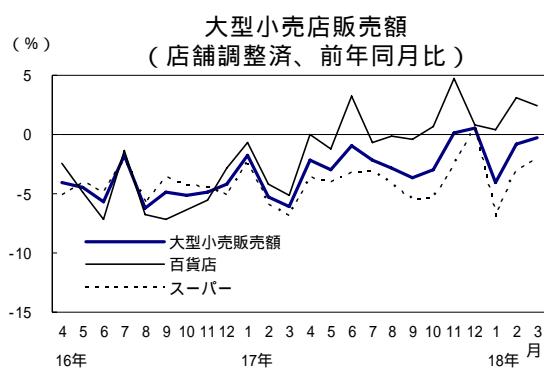
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、食料品が不振であったが、初売りやクリアランスセールが好調であったことや、宝石・絵画などの高額商品にも動きがあったことにより、前年を上回った。2月は、中旬から前年を上回る気温で推移したため、春物衣料品などを中心に好調であったことから前年を上回った。3月は、中旬以降気温が下がり、春物衣料が不調だったものの、催事・改装効果などの影響により客足が伸び、6か月連続で前年を上回った。

スーパーは、主力となる飲食料品のほか、家庭用電気機械器具、身の回り品が不調で、3ヶ月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

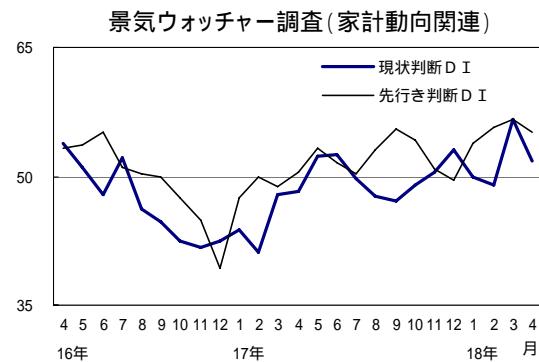
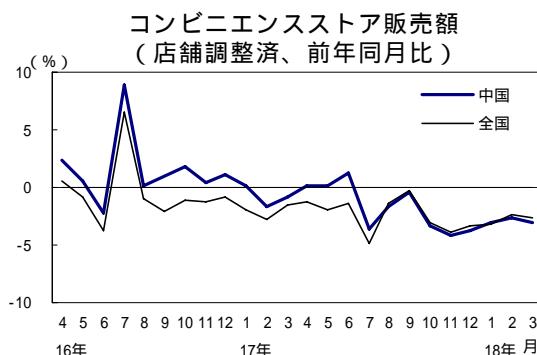
「ファッション部門は一斉に初夏物へ品ぞろえを変更したが、4月に入り、肌寒い日々続いたため、婦人服がミセスを中心に低迷が続いた。またカジュアルウェアについては価格に対してもシビアな購買姿勢が見受けられる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	2.1	2.8	0.6	1.8
百貨店	0.6	0.4	1.9	1.8
スーパー	3.7	4.2	2.3	4.2
コンビニ	0.5	1.9	3.8	3.0
景気ウォッチャー	51.0	48.2	50.8	51.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

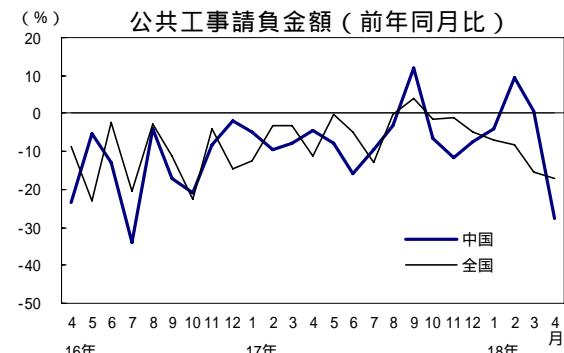
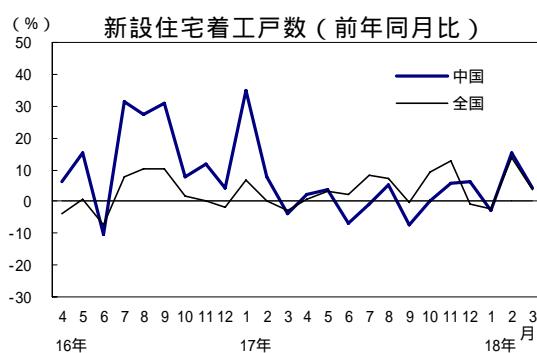
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、賃家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計でみると前年度を下回っている。

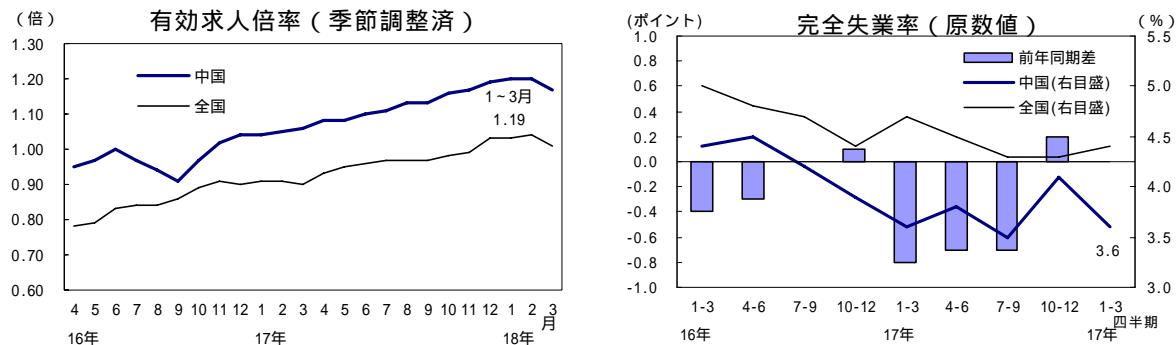


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



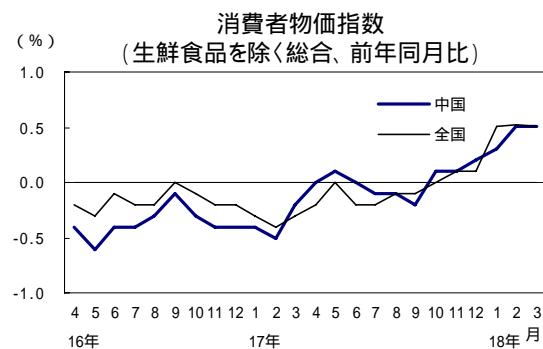
景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

「企業をまわっている担当者の話でも、前向きの明るい企業活動に関する話が少ない（新聞社〔求人広告〕）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇幅が拡大している。

企業倒産					
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数 (前年比)	150 8.5	117 23.5	153 9.3	184 38.3	36 18.2
負債総額 (前年比)	377 9.7	423 4.9	626 94.2	772 84.4	131 47.3



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・得意先からの増産要請があり、連休中に設備投資を予定している。ただし、人員は現状のままとし、固定費は増加させない方向である（金属製品製造業）

<先行き>

・原油高に伴いガソリン代も上昇することで、我々自動車業界にも、じわじわと影響が出てくると思われ心配している（乗用車販売店）

景気ウォッチャー調査（合計）

